

平成 21 年
7 月 29 日

病害虫発生予報 8 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

． 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稲：いもち病(穂いもち), 斑点米カメムシ類	1
水稲：イネツトムシ	2
サツマイモ：チョウ目幼虫(ナカジロシタバ等)	2
ナシ：ナシヒメシンクイ	2
ナシ：ハマキムシ類	3
果樹共通：カメムシ類(第1世代(新世代)成虫)	3

【その他の病害虫】	4
水稲, ダイズ, ナシ, ブドウ, カキ, クリ, 抑制トマト, 夏秋ナス, 共通害虫	

． 病害虫ミニ情報

サツマイモのナカジロシタバの発生生態と防除対策	6
-------------------------	---

． 今月の気象予報	7
-----------	---

． テレホンサービス	7
------------	---

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は、平成21年7月8日現在のものです。

農薬登録速報については、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel : 029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1．いもち病（穂いもち）

【予報内容】

発生時期	発 生 量	発生地域
やや早い	多い	県下全域

【予報の根拠】

7月下旬現在，葉いもちの発病度及び発生地点率は平年よりやや高い～高い。

7月22～24日には，いもち病感染好適条件となっており，7月末～8月初めにかけて葉いもちの発病・進展が予想される。

本年の水稲の生育は平年より早く，中生のコシヒカリは出穂期を迎えており，葉いもちの発生が多い水田では，穂いもちの発生が懸念される。

気象予報によると，向こう1か月の気温は低く，降水量は平年並か多いと予想され，発生を助長する条件である。

【防除上注意すべき事項】

いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは，出穂後14日位までである。この期間に降雨が続く場合は，発生に注意が必要である。

穂いもちを対象とした薬剤防除の適期は，穂ばらみ末期～穂揃期である。上位葉に病斑が進展している水田では，防除を徹底する。

（平成21年7月24日発表の病害虫発生予察注意報第3号参照）

2．斑点米カメムシ類

【予報内容】

発生時期	発 生 量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

【予報の根拠】

7月下旬現在，水田周辺のイネ科雑草における発生量は平年よりやや多く，水田内における発生量は平年並である。

クモヘリカメムシの産卵時期は，平年よりやや早い。

【防除上注意すべき事項】

斑点米カメムシ類の防除適期は，穂揃期（対象：飛来・侵入する成虫）と，出穂期から15日後頃（対象：幼虫）である。穂揃期に多数の成虫を確認した場合は，防除を実施する。

クモヘリカメムシ幼虫の防除適期は，県南・県西地域で8月5日～10日頃，県北・県央・鹿行地域で8月15日～20日頃と予測される。

周辺よりも出穂の早い水田，ヒエ等の雑草が多発している水田では，成虫の飛来が集中しやすい。また，出穂の遅い水田では，周辺の水田等で増殖した新成虫が侵入することがあるので，発生には十分注意する。陸稲においても，水稲と同様に発生に注意する。

成虫および若齢幼虫が主体の場合は，残効の長い薬剤を用いる。防除の際には，収穫前日数等の農薬使用基準に十分留意する。

3. イネツトムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、本虫のツト数は平年よりやや多い。

7月上旬のツト数は、平年より多かった。また、ツトの発生地点率も平年より高かった。

[防除上注意すべき事項]

周辺に比べて田植えが遅い、窒素が多い等の理由で葉色が濃い水田では、産卵が集中するので、発生に特に注意する。飼料用稲はこれらの条件にあてはまるため、発生には注意が必要である。

7月末～8月初めに水田を観察し、発生が多い場合には、幼虫が小さいうち（葉先が巻かれ始めた時期）に薬剤防除を実施する。

上位葉が食害されると、収量・品質の低下を招く。また、葉をつづり合わせてツト（巣）をつくり、出穂を妨げることがあるので、防除は遅れないようにする。

サツマイモ

1. チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、被害葉率及び発生地点率は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

ナカジロシタバは、第3世代幼虫の被害が最も大きい。ナカジロシタバ第3世代幼虫の発生は、9月上旬頃からと予想される。老齢幼虫になると防除効果が劣るので、幼虫発生初期（つる先や上位葉に指先ほどの穴が開いた食害痕が点々と認められる）の防除に努める。

薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

（P.6 病害虫ミニ情報参照）

ナシ

1. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並～やや早い	平年並～やや多い	県下全域

(ナシ ナシヒメシンクイ続き)

[予報の根拠]

7月下旬現在，被害果率は平年並～やや高い。

第2世代成虫のフェロモントラップ(土浦市，石岡市，小美玉市及び県予察ほ場：笠間市)への誘殺数は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

被害果を見つけた場合は，土中深く埋めるなど速やかに処分して，次世代による被害を防ぐ。

薬剤散布を行う場合は，収穫前日数に十分注意する。

薬剤散布量は，10a 当たり 300 リットルを目安にする。薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

「幸水」で被害果が目立った場合は，「幸水」収穫終了後に「豊水」や「新高」等を対象に薬剤散布を行う。

2. ハマキムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，被害葉率は平年並～やや高く，被害果率は平年並である。

チャハマキ第1世代成虫のフェロモントラップ(県予察ほ場：笠間市)への誘殺数は平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

徒長枝の葉を折り曲げて綴ったり，果実と葉が重なる部分を綴ったりする被害がないか注意する。枝が混み合っているところは特に注意して観察する。

上記のような被害が多いほ場では，8月中旬に薬剤散布を行う。

果樹共通

1. カメムシ類(第1世代(新世代)成虫)

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	平年並	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，ナシでの被害果率は平年並である。

果樹園に設置した予察灯(かすみがうら市)への誘殺数は，チャバネアオカメムシでは平年並，クサギカメムシは平年よりやや多い。

7月下旬現在，主要な餌場及び繁殖場所であるヒノキ林におけるカメムシ類の発生は，平年並である。

(果樹共通 カメムシ類続き)

[防除上注意すべき事項]

夜温が高いと活動が盛んになり、果樹園へ飛来するので、このような場合は発生に注意する。

薬剤散布は、カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水 稲	紋枯病	発生量: やや少ない	7月下旬現在, 平年より少ない発生である。
	縞葉枯病	発生量: -	7月下旬現在, 県西地域の一部ほ場で発生が確認されている。
	ニカメイガ	発生量: やや多い	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。近年, 発生量は増加傾向にある。防除する場合は, 8月上旬~中旬に行う。
ダイズ	紫斑病	発生量: -	防除適期は開花期の20日後頃である。開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると, 発生が多くなるので注意する。
	チョウ目幼虫	発生量: 平年並	7月下旬現在, 平年並の発生である。
ナシ	黒星病	発生量: 多い	7月下旬現在, 平年より多い発生である。発病している果実及び葉は, 見つけ次第取り除き, 土中深く埋める。
	ハダニ類	発生量: 平年並	7月下旬現在, 発生を認めず平年並である。今後, 気温の上昇とともに, ハダニ類の発生に好適な条件になる。
ブドウ	褐斑病	発生量: 多い	7月下旬現在, 平年より多い発生である。
	べと病	発生量: 平年並	7月下旬現在, 発生を認めず平年並である。
カキ	炭そ病	発生量: 平年並	7月下旬現在, 発生を認めず平年並である。
	カキノヘタムシガ	発生量: 平年並	7月下旬現在, 発生を認めず平年並である。7月下旬から8月上旬にかけて第2回成虫が発生するので, 8月上中旬に次世代の若齢幼虫を防除する。

作物	病虫害名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
クリ	モモノゴマダ ラノメイガ	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，被害果率及び発生地点率は，平年よりやや高い。予察灯（かすみがうら市）への誘殺数は，平年並である。 「神峰」は，モモノゴマダラノメイガの被害が発生しやすいので特に注意する。
抑制 トマト	ミカンキイロ アザミウマ	発生量：多い	7月下旬現在，平年より多い発生である。本虫は，黄化えそウイルス（TSWV）を媒介するので注意する。
夏秋 ナス	オンシツコナ ジラミ	発生量：やや多い ～多い	7月下旬現在，平年より多い発生である。向こう1か月の気温は低く，降水量は平年並か多いと予想され発生を助長する条件ではない。
	チャノホコリ ダニ	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。向こう1か月の気温は低く，降水量は平年並か多いと予想され発生を助長する条件ではない。
共通 害虫	オオタバコガ	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，ナスでやや多い発生であるが，その他の作物では平年並の発生である。フェロモントラップへの誘殺数は平年並～やや多い。
	ハスモンヨトウ	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，平年並の発生である。フェロモントラップへの誘殺数（県予察ほ場：水戸市，笠間市）は平年よりやや多い。

平成 21 年度農薬危害防止運動実施中

農林水産省・厚生労働省・都道府県共催

農薬を使用するときは...

農薬ラベルを確認！

周辺への飛散に注意！

マスク，手袋，防除衣を着用！

農薬は鍵のかかる場所で保管しましょう！

サツマイモのナカジロシタバの発生生態と防除対策

ナカジロシタバは、幼虫がサツマイモの葉を食害します。多発すると、短期間で葉脈だけを残して葉を食べ尽くすので、サツマイモの収量・品質低下につながります。また、サツマイモの葉を食い尽くした後、餌を求めて移動する際に民家等に侵入して問題になることもあります。本虫は、老齢幼虫になると急激に被害が拡大するので、初期の発生に注意して、早めに防除を行うことが重要です。

1. ナカジロシタバの発生生態

ナカジロシタバは年3回発生し、9月上旬頃から発生する第3世代幼虫の発生量が最も多くなります。成虫は夜間に飛び回り、葉の裏に卵を産み付けます。孵化した若齢幼虫は、つる先の若い葉を好んで食害します。中～老齢幼虫になると、昼間は茎葉の陰などにひそみ、夜間に活動して葉脈だけを残して暴食するようになります。成熟した幼虫は土中に潜ってマユを作り、その中で蛹になります。

2. 発生状況

本年は、7月下旬現在、平年並みの発生となっています。本県における被害は、例年9月下旬に多くなります(図1)。特に、夏期の降水量が平年より少なく、気温が高い年は発生が多くなる傾向にあるので、今後の気象や幼虫の発生には十分注意してください。

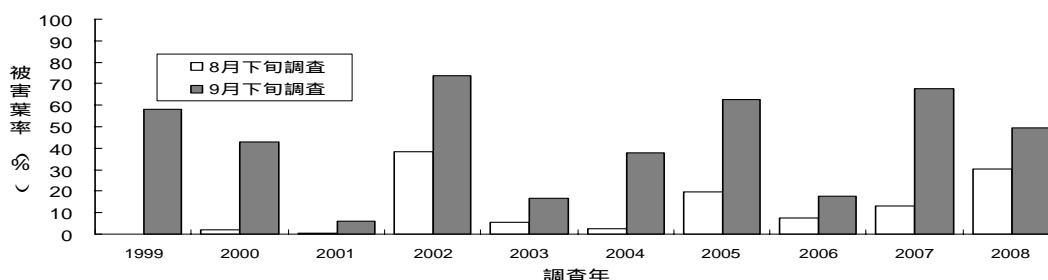


図1 過去10年間のナカジロシタバ被害葉率

3. 防除対策

8月下旬～9月中旬に圃場での発生の様子をよく観察し、若齢～中齢の時期(丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の25%程度を食害された葉が目立つ時期)に、早めに薬剤散布を行います。その際、幼虫が生息する葉裏まで薬剤がかかるよう丁寧に散布してください。

薬剤に対する抵抗性は現在のところ認められていないので、表1に示す薬剤を適期に散布することで、十分な効果が得られます。なお、IGR剤(ノーモルト乳剤、マッチ乳剤)は、他系統薬剤に比べ殺虫効果の発現に時間がかかりますので、早めに散布するようにしてください。

(平成19年度農業総合センター農業研究所主要成果参照)

表1 サツマイモのナカジロシタバに登録のある主な農薬(平成21年7月8日現在)

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 - 剤の使用回数	有効成分名 - 有効成分の総使用回数
オリオン水和剤40	1,000倍	前日 - 5回	アラニカルブ - 5回
ディブテレックス乳剤	700～1,000倍	14日 - 4回	DEP - 4回
トルネードフロアブル	2,000倍	7日 - 2回	インドキサカルブMP - 2回
トレボン乳剤	1,000倍	7日 - 3回	エトフェンプロックス - 3回
ノーモルト乳剤	1,000倍	7日 - 2回	テフルベンズロン - 2回
マッチ乳剤	2,000～3,000倍	14日 - 2回	ルフェヌロン - 2回
ラービンフロアブル	750～1,000倍	3日 - 3回	チオジカルブ - 3回

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用してください。また、周辺作物等へ飛散(ドリフト)しないよう十分注意して散布してください。

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 7月25日から8月24日)

気象庁(7月24日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	50	30	20
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	50	30	20

[概要]

天気は, 平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

< 1週目の予報 > 7月25日(土曜日)から7月31日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率60%

< 2週目の予報 > 8月1日(土曜日)から8月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率50%

< 3週目から4週目の予報 > 8月8日(土曜日)から8月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率40%

・ テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために, 病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号: 029(226)5321

8月上旬 水稻の病害虫について

8月下旬 ダイズ, サツマイモの病害虫について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。